

## 自転車レーンの走行環境整備



自転車レーンは物理的に分離されていないため、路上駐車が走行環境を悪化させる大きな要因になる。



自転車レーン上に駐車車両がある場合、自転車は自動車の走る車道に出るか、歩道を走るかの選択を迫られる。



車道を選択すると、自動車との交通事故の心配  
歩道を選択すると、歩行者との錯綜の可能性

20141118 交通安全フォーラム

48

## 自転車レーンの走行環境整備



岡山市・市役所筋

20141118 交通安全フォーラム

49

## 自転車レーンの走行環境整備



岡山市・市役所筋

20141118 交通安全フォーラム

50

## 自転車レーンの走行環境整備



岡山市・市役所筋

20141118 交通安全フォーラム

51



岡山市・西川筋

その自転車レーンなのですが、これは地元の例でお話すると面倒くさいことになりますので、大阪の事例を持ってきました。

動画を見て、いただけると分かりやすいのですが、最近、インターネット上にいろいろ動画が載っているので、助かります。これは、岡山でも整備している自転車のレーンですね。せっかく整備してもこんな感じで駐車する自動車に邪魔されているのですね。

せっかくこんな空間を使っても、こういう状態になると、結局、駐車車両を避けて、ずっと車道を走っているのですよね。

こういう状態にならないようにするには、どうすれば良いかということですが、やはり自転車レーンが自動車の走る車線と物理的に分離されていないということが大きな問題で、路上駐車を何とかしなきゃいけない。

自転車レーンがあるところに駐停車禁止指定場所と駐停車禁止場所というのはあるのですが、特に駐車禁止指定場所は停止が可能なので、荷捌きだとか、あるいはお店にちょっと行くだとか、そういう理由で停まっている車両がいるのです。

結果として、自転車レーン上に車がとまっているということになり、その場合に、自転車は、自動車が走る車道に出るのか、あるいは歩道を走るのかという選択を迫られます。

今回、自転車を歩道から車道におろすという判断理由の中には、歩道上走る自転車が人と交錯する。場合によっては死亡事故にまでなってしまうという事例が

たくさん起こったものですから、やはり本来の形に戻して、自転車は車道を走ることにして、車道を自転車にとって安全にしていこうということを行っているのですが、車道が今のような状態だと結局、元から走っていた歩道を走るか、あるいは危険を承知で車道にトライするか、どちらかになってしまいます。車道のほうを選ぶと自動車にぶつかる可能性もあるし、特に大型車が来ると本当に怖いのです。

歩道を選択すると歩行者とぶつかる可能性がある。

そういう意味でどちらに行っても大変なことになりそうです。

市役所筋を自動車で走ってみました。そうすると、やはりこんな感じですね。

何だかんだと自動車がとまっております。ハザードランプを点滅させていけばいいという話ではないのです。

自動車が停まっているので、自転車は、車道の内側に入って通るのか歩道を通るのかということになります。

この駐車停車ということを何とかしないことには、安全な空間、走りやすい空間というのはできないと思うのですけれども、今のところ少なくともこんな状態です。

これは、もともと計画を立てるときにも判っていた話だろうし、岡山市も全く何も考えずに整備したわけではなくて、例えば自動車が停車する場合は場所を決めておいて、自転車はこちらを走れるよというものを今回工夫して造っているのですけれども、駐車停車が2台も3台も4台もあると、結局、はみ出してしまいうのですから、役に立たなくなってしまう。


そういう意味で、荷捌きだとかお店に来たお客さんだとかにはどこか別のところに駐車してもらうようなことを考えるだとか、そういう道路の使い方のところまで踏み込んだことを今後やっていかなければいけないのかなと思っております。

同じような状況は、狭い道でもありまして、結果としてこんなことになっているので、この人は歩道を走っているということになっていますね。


高齢者とか、子供なら自転車で歩道を走ってもよいということになっているのですけれども、そういう年代層には見えないですよ。

これはやはり今までにも言われていることでして、2008年に名古屋で自転車の空間を整備しました。かなり大々的にPRされた事例でもありました。当時、私は名古屋のほうにいたものですから、この通りはよく通っていたのですけれども、

実は半分ぐらいの自転車は歩道の部分を通っていました。



同じような問題として・・・



名古屋・伏見通り  
2008年に整備

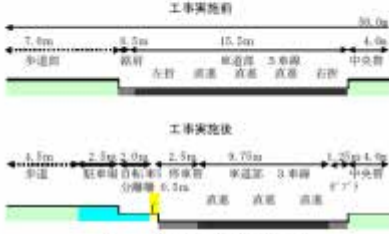


図-1 伏見通りの道路断面構成

20141118 交通安全フォーラム 54






線形が悪く、自転車に乗っていると、自転車道を走るのがめんどくさくなって歩道を走行してしまう

↓

駐車車両を避けるのと同じ

↓

できるだけスムーズに走れる空間を整備・維持していくことが大切

20141118 交通安全フォーラム 55

何でそのような通行方法になるのかといえば、この交差点のところの処理ですね。

自転車走行空間をせっかく走ってきても、交差点のところでぐるっと曲がって、降りて、渡って、またぐるっと回って戻っていくと。それだったら、横の歩道には歩行者がほとんどいんだからまっすぐ走っちゃえと考えるのも無理はないですね。



こんなことをさせられて本当に便利かと言われるとそうでもないので、ついこちらの誰もいない広大な歩道を走っちゃう。

同じようなことは岡山でも日常的に見ているような気がします。これは、自動車が自転車レーンにとまっていたという場合でも、一回歩道に乗っちゃえばそのまま歩道を走行するでしょうという話につながるのだらうと思います。ですので、そういう意味で、どんどんきちんと走れる空間を整備していくということが大事だらうと思っています。



これは青江交差点の周辺で、最近、地元の放送局でどうにかならないかと取り上げられ事例ですけれども、せっかくきれいに自転車の空間を塗ったのに電信柱が残っている。走ってほしいのかどうなのかと思います。この電信柱は、数年したら撤去されるということなのだそうですが、電信柱がしばらく残るのだったら、それを前提としてデザインすれば済む話だったと思います。なかなかそういうところまで細かいところを気づかっていかないと、どうしても整備しただけではこういうことが起こりがちだと思います。

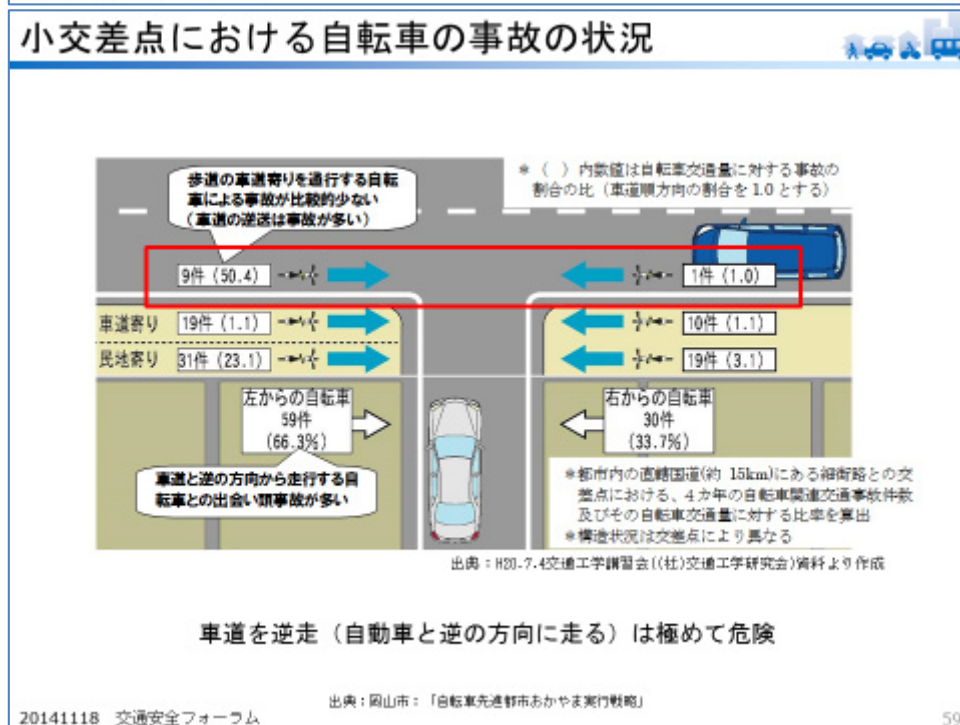
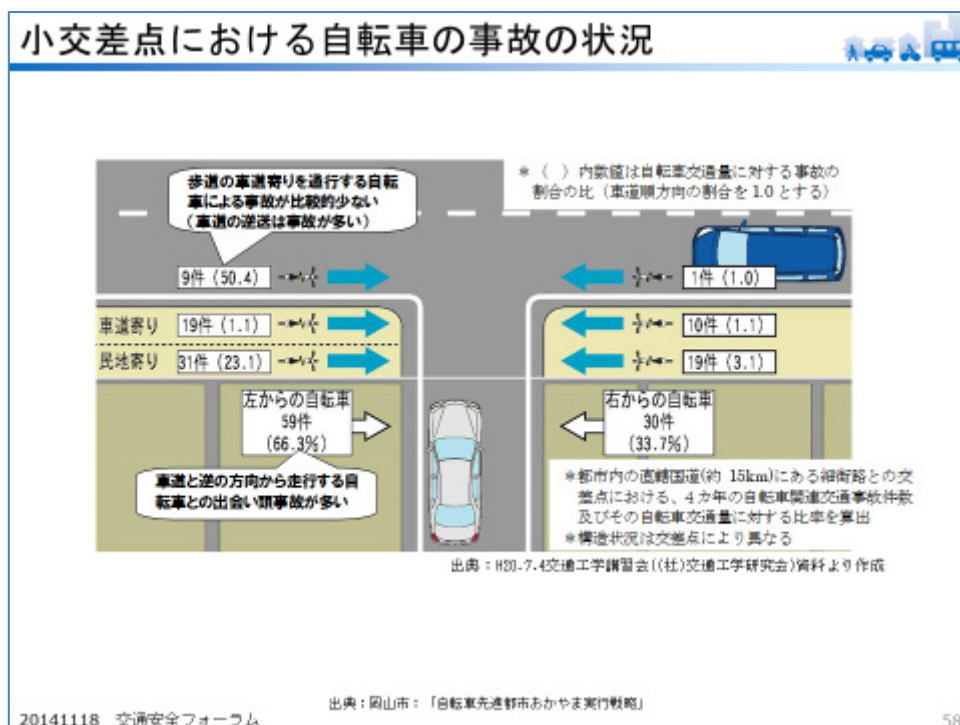
自転車っていうのは自動車に早い速度で走ります。時速 20 キロ、秒速では 5 . 何メートル程の速度で走るのですけれども、利用者の意識としては歩行的な意識で動いておりますね。

ですので、やはり歩行者が見てもおかしくないなというぐらいの細かいディテールと言いますか、細かい話も頭に入れて設計しておかないと、図面上で線を

引いて、「はい、これで計画できました。」というような世界ではちょっとないのかなという気がします。

さて、ここまでは行政の方にもいろいろ頑張ってもらいたい話ですけども、ここから先は、できればきょう御家庭に帰った後、家族の方、特に子供さんにお話しておいてほしいことをお伝えします。

この手のことはよくあると思います。道路があって、歩道があって、横に細い街路がある。そこから自動車が出てきますよというような状況です。



今、法律的には、昔からそうですけれども、自転車は車道の歩道側のこのところを走りなさいというのが基本です。

ただ、高齢の方とか、子どもの方、この道路は非常に危険だという場合には歩道を走って良いし、先ほどの歩道の中の半分ぐらいは歩行者と自転車の空間として整備されているというお話をしました。なので、歩道を走ること自体は、どうこう言う気もないのですが、走る場所によって、安全性が全然違うということなのです。ここの括弧の中の数字を見てください。

ここを走っている自転車が事故に遭う確率が1だとしたときに、これを逆走している自転車というのは50倍ぐらい事故に遭いそうだと。要するに、車道を走りなさいだけではなくて、自動車と同じ方向に走りなさいということをご家庭で伝えてほしいのです。

そして同時に、歩道のところも見ていただければ、自動車と同じ方向に走るものがそうでないものと比べてやはり数字が低い、事故に遭いにくい。かつ、歩道の中の車道側を通るほうが数字が小さいということを見ていただけたらと思います。

先ほど申しましたように、これが基本ですけれども、逆方向に走るのは非常に危険なのです。



この写真は、私の勤めている岡山大学の前、多分うちの学生なのでしょうね。やってくれますよね。逆走しながら並列して走っています。





岡山駅の前、これは高校生っぽいので岡山大学の学生ではないと思うのですが、  
こういうのは非常に多く見ますが、やはり危険なのですね。

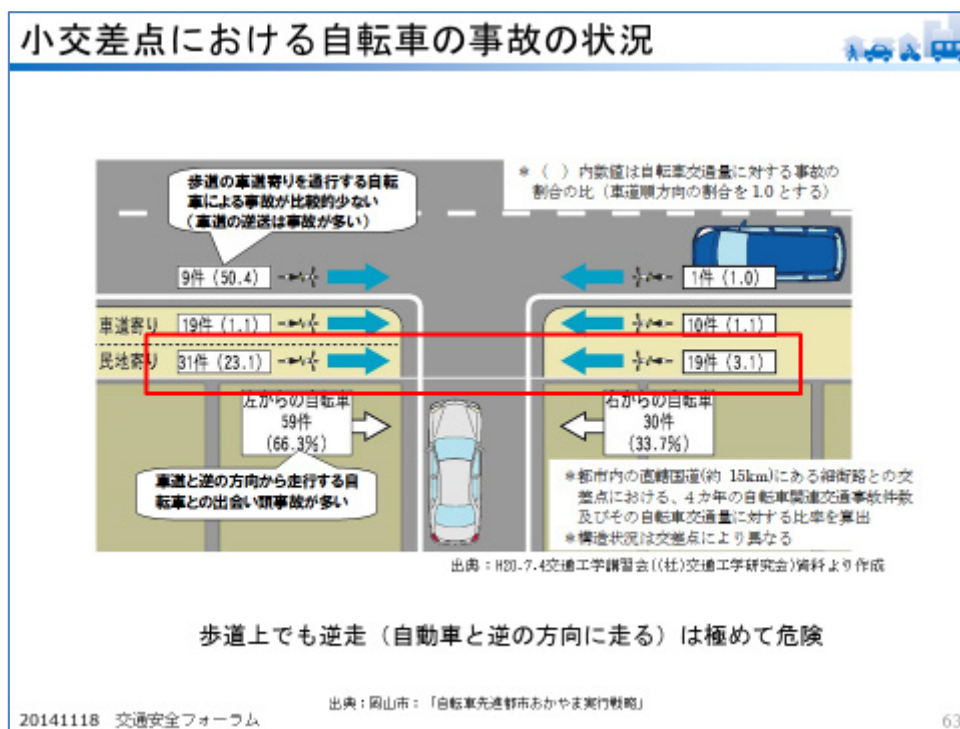


そして建物の側を走る、これもやはり危険で、できれば車側のほうを走ってください。

そして、家の側を走るにしても、方向から言うと自動車と同じ方向に走っているこっちのほうが断然安全です。

これはなぜかと言うと、さっきのこの数字なのです。

秒速 5.6 メートルとか、3.3 メートルと言いました。皆さん自動車にも当然乗られると思うのですが、運転していて、道路に出て行くときにどっちを見ますか。



絶対にまずは右方向を見ているのですね。

なぜなら、近くに来る自動車は右から来るから。右側を見て運転している自動車からは左側から走ってくる、しかも家の陰から出てくるような自転車には気がつくわけがないのです。

